

多職種連携と初期臨床研修教育のノウハウ を活用した特定行為看護師教育

順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科
水野慶子 發知祐太 大杉一平 加藤理沙 三島健太郎
高見浩樹 薄田大輔 野村智久 杉田 学

まずは当院のご紹介！

平成17年7月に開院した綺麗な新しい**490床**(ICU、CCU、NICU・GCU、無菌病室を含む)の大学病院です。
アットホームで病院全体で「**医師や看護師、コメディカルを育てよう**」という風土、雰囲気のある病院です。
各診療科間の**風通しがよく、楽しく親切的な雰囲気**に満ち溢れています。
各科の「壁」のない総合医局で、**医師・看護師・コメディカルのフラットな診療環境**があります。
豊富なcommon disease & 救急症例に加えて大学病院らしい**高度な先進医療を必要とする症例**を多く経験できます。

早速、当院の取り組みをご紹介します！

2017年度に厚生労働省から発足された「特定行為に係る看護師の研修制度」に則り、当院では外部施設から多数の実習生を受け入れ指導を行い、世に輩出してきました。
2023度から新たな取り組みとして、院内の救命センター及び手術室看護師(対象者は、実務経験5名以上かつ技能や教育、自己研鑽などのレベルが高いもの)を対象に特定行為研修を開講し、救急・集中治療科医師を中心とした指導者が実習指導に関わっています。

●特定行為とは？

診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる21区分**38行為**のことです。

●特定行為研修の実際

特定行為研修は、厚生労働大臣が指定する研修機関で行われます。
研修は、全てに共通して学ぶ「**共通項目**」と、特定行為区分ごとに学ぶ「**区分別科目**」に分かれています。
研修は、講義・演習・実習で構成されます。

特定行為区分(21区分)	特定行為(38行為)
創部ドレーンの管理関連	・創部ドレーンの抜去
栄養及び水分管理に関わる薬剤投与関連	・持続点滴中の高カロリー輸液投与量調整 ・脱水症状に対する輸液の調整
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	・経口用気管チューブ又は経鼻用機関チューブの位置の調整
呼吸器(人工呼吸器療法に係るもの)関連	・侵襲的陽圧換気の設定 ・非侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・人工呼吸器管理がなされているものに対する鎮静薬の投与量の調整 ・人工呼吸器からの離脱
動脈血液ガス分析関連	・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保
など	

当院のユニークな指導と研修体制

研修指導

- ✓ 研修医指導のノウハウを活用！
屋根瓦式教育はもちろん、**医師・看護師・コメディカルによる多職種からの指導体制を設けている。**
- ✓ 指導体制は鉄壁の上級医からコメディカルまで！
- ✓ インプットだけでなく、アウトプットすることで情報を整理し理解を深められる。
- ✓ **実習では相互性を大切に！疑問点はすぐに指導医がフィードバック！**

ここが一押しポイントマーク

実習場所・環境

- ✓ **実習場所は様々！現場は、病棟だけではない！**
→救急外来、手術室、一般病棟、ICUなど。
- ✓ 各部署が実習生を受け入れ、積極的に協力する体制が整っている。
- ✓ **アットホームな雰囲気、外部からの実習生ものびのび実習できる環境！**
- ✓ 医師・看護師・コメディカルのフラットで壁のない診療環境のため、**実習生がチーム医療を実感できる！**

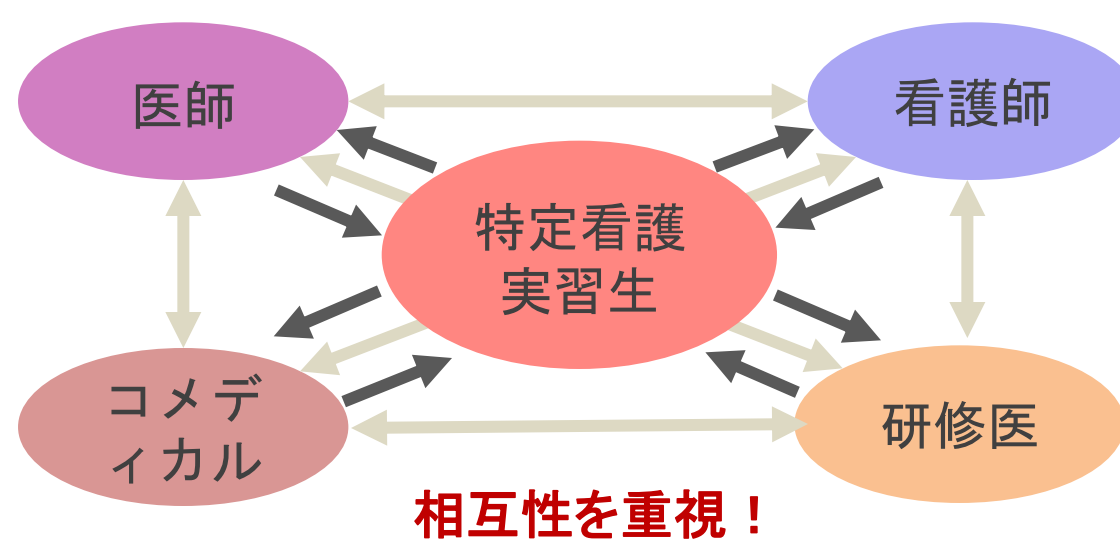
パッケージ化と研修内容

- ✓ 特定区分には38項目があり、当院では**パッケージ化し、より研修を円滑に！**
- ✓ 「共通項目」
講義：学研メディカルサポートを採用
演習：各科の上級医が指導・サポート
「区分別科目」
実習：実技の指導は各科の上級医が指導・サポート
※実習については、年に数回、外部からも受け入れている。

看護実習生の背景とダイバーシティ



院内のダイバーシティの仕組みと実習生との関係



実習風景



手術室で実技実習！

●取り組みによる効果

特定行為研修終了後は、手技ができるようになるだけでなく、個々の患者の病態の評価を行いながら適応について考察することができるようになります。手順書に則り、取得した特定行為を実施できるため、各部署での活躍の場が広がっています！また各部署でのロールモデルとなっています。

研修第一期生の最終報告会



●問題点と今後の課題

- ・指導者側：研修指導と診療を兼任しており、受講人数には限りがある。限られた時間の中で効率的に指導する必要がある。働き方改革の影響も受けて、実習時間の確保には周囲の協力が必要。
- ・研修終了側：特定行為を安全かつ円滑に実践できるように院内で整備し、統一する必要がある。